

米軍も認める特殊塗料

LINE-X

Performance Check Part.2

Text&Photo/ Hiroyuki KONDOH

Call/ LINE-X Auto Japan www.line-x-auto.co.jp

取材協力/ フレックス・ドリーム LINE-X事業部 埼玉 048-793-0077 www.flexdream.jp/LINE-X/saitama/

耐衝撃や耐爆破性、強度と柔軟性を併せ持つその性能を、米軍が認めたLINE-X。この特殊塗料の特徴を、2回に渡ってお伝えしているこのコーナー。今回はその“強さ”に加え、カスタム面での可能性を探ってみることにしよう。



カスタム
ポイントを
Check!

タンドラの重さは3トン以上、それをLINE-Xを厚めに塗装した紙カップ4つで支えている。紙カップ1個にかかっている重量はなんと、800kg以上だ!



先月号では、LINE-Xの強さをメインにお伝えしたが、今回はトヨタ・タンドラをモデルに、カスタムの可能性を探ってみよう。つと、その前に、タンドラの写真に何か違和感がある。タイヤの下にセットされているのは、なんとポップコーンの紙カップにLINE-Xを厚めに塗装したものの。紙カップ1個あたりにかかっている重量は約800kg。この結果からもLINE-Xの強さが分かる。

その強さを武器に、荷物で傷付きやすいピックアップのベッドや、跳ね石などで傷みやすいオフローダーの下廻りの保護ペイントとして活用されているLINE-Xだが、その独特な風合いの塗装面にカスタムフリークからも注目が集まっている。艶があるうが無くするが、クルマのボディに使われているペイントといえ、手触りがツルツルとしているのが常識だった。しかし、それとは明らかに一線を画すのがLINE-X。その手触りはまるで番手の荒いヤスリのように。凸凹がある塗装面は、新しいモノに目がない、カスタム好きの心を掴んだのである。熟練のスタッフの手に掛ければ、塗装面のざ

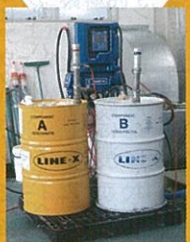
らつき感に強弱をつけることもでき、また、カラーバリエーションも豊富だから、好みに近い色味にペイントすることも可能なのだ。ちなみに塗装面の厚さは、クルマの場合1mm前後が一般的。塗装後の重量増は、1mm×1㎡1kg目安となっているという。



塗装後のザラついた表面の表情がLINE-Xの特徴。このザラつき加減は、調整できるという。ボディ各部など、塗装面には制限がないのでオールペンも可能だ。

ポリイソシアネートとポリアミンを反応させたポリウレタ樹脂。そのポリウレタ樹脂を独自の技術で高純度化しているのがLINE-X。適度な強度と柔軟性、そして強力な吸着性を持つため、耐衝撃・耐爆破・防錆・防音・耐摩耗に優れ、自動車メーカーも純正オプションとして、スプレーオン・ベッドライナーなどで使用している。その強さと共に、塗膜の経年劣化も極めて遅く、20年以上の耐久性が実証されている。

What's LINE-X



撮影したタンドラは、ベッドライナー、オーバーフェンダー、カンガルーバーをLINE-Xで塗装。これだけでも全体の雰囲気が締まった感じになる。下のランクルの場合は、さらにバンパー・ボンネット部分にもLINE-Xが施されている。中には、ボディ全体をLINE-Xで全塗装するオーナーもいるという。ちなみに今回はブラックのみだが、各種のカラーも用意されている。

